AiGO ほっかいどう 194

[ほっかいどう 愛護]発行／2022年 10月　発行所／札幌市中央区北2条西7丁目かでる2･7 4F TEL.（011）271-0228
発行者／北海道知的障がい福祉協会　会長 大垣 勲男

令和４年度北海道知的障がい福祉協会会長表彰　受賞者のみなさま（総合活動者）

2022.10
CONTENTS

2P. 令和4年度北海道知的障がい福祉協会会長表彰
3P. 令和4年度第33回グループホーム等研修会北海道大会を終えて
4P. 令和4年度全道知的障がい施設対抗パークゴルフ大会
5P. 北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと2022
6P. 人気NO.1うちのメニュー
7P. ご長寿バンザイ
8P. 本の紹介
　　手しごと探検隊!「太陽の水（トマトジュース）」

令和４年度北海道知的障がい福祉協会会長表彰

６月30日に会長表彰を受賞された支援功労者の皆様よりコメントをいただきました。

古家好恵様

社会福祉法人麦の子会　常務理事・統括部長

この度は会長賞、ありがとうございます。
子ども、利用者さん、保護者の皆様、職員の皆様の支えと地域の皆様のご支援の賜物と感謝しております。
また、北海道知的障がい福祉協会の皆様には研修会などを通して勇気づけて下さいましたこと、心より感謝申し上げます。
まだまだ第１歩を歩みだしたばかりです。これからは2歩3歩と進めて行かなければと心新たにしているところです。
今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

岩本浩吉様

社会福祉法人ビバランド　大滝学園施設長

この度は、尊敬する先輩諸氏が受賞されております、栄誉ある会長賞を頂きましたこと、誠に嬉しく光栄に存じます。今まで出会った多くの方々に支えられ、特に利用者さんとの心の琴線に触れる出来事や笑顔に接することで、この尊い仕事を続けることが出来たと深く感謝する次第です。今回の受賞を機に、知的障がい者福祉の向上と共生社会の実現へ、より一層の貢献をいたす所存ですので、会員の皆様よろしくお願い申し上げます。

今田英徳様

社会福祉法人長井学園　ハビタットのっぽろ施設長

この度の会長表彰の受賞は大変光栄に思っております。私自身知的障がい者の福祉実践に関わり38年になりますが、今までの会長表彰受賞者と比べても若年であり、実績も乏しい中の受賞で少し恐縮しております。ただ、支援研究委員をはじめ運営研究委員、協会の理事を務めさせて頂いたことは良い経験となりました。今後とも福祉実践に精進してまいります。ありがとうございました。

竹田雄三様

特定非営利活動法人静内耕生舎代表理事　CoKoRo357施設長

このたび、身に余る会長表彰をいただき誠にありがとうございます。50年余り前、まだ未認可であった通勤寮に勤務以来、この道を歩いてこられましたのも、多くの道内外の先人の先駆的苦難の道に触れる機会を得ながら障がいの人たちから励まされ教わってきたからと改めて感謝とお礼をいたします。

髙橋雅人様

社会福祉法人後志報恩会　グループホーム支援センターにじ施設長

この度は身に余る賞をいただき誠にありがとうございました。
先の見えないコロナ禍は不安も伴う毎日ですが、地域で暮らす利用者さんが笑顔で暮らせるよう協会の一員として支えていきたいと思います。
北海道知的障がい福祉協会のますますの発展を祈念申し上げ、受賞のお礼とさせていただきます。

白幡　浩様

社会福祉法人萌木の会　工房とみさと・セキレイの里施設長

この度は、皆様のご指導の賜物により、北海道知的障がい福祉協会会長賞を受賞することが出来ましたことに、心より感謝申し上げます。今後も一層の努力をし、協会の発展に微力ながら貢献してまいりますので、変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
誠にありがとうございました

米谷義弘様

社会福祉法人雨竜園常務理事　雨竜町暑寒の里施設長

この度は、道福祉協会々長賞をいただき大変ありがとうございます。
私、この障がい福祉に、奉職してから30数年となりますが、自身としてはこの事業実績としての功績はあまりない中、会長賞を授与された事、道協会及び地方協会の皆様に推薦頂き大変感謝する次第であります。今後につきましても、利用者様を第一に障がい福祉事業に貢献できるよう努めていく所存です。改めて皆様に対し感謝申し上げます。

松平昇三様

社会福祉法人鷹栖共生会常務理事　共同生活援助事業所恵風施設長

この度は、会長賞をいただき誠にありがとうございました。永く障がい福祉の仕事をすることができて、本当によかったなと実感しているところです。
これも偏に、今まで関わりのあった多くの方々の支えがあってのおかげで、感謝あるのみです。
この3年あまり、私たちは新型コロナに振り回されてきました。みなさまと共に早くこのトンネルを抜け出し、新たな一歩を踏み出したいと願っております。

令和４年度
第33回全国グループホーム等研修会北海道大会

令和４年８月26日、今回で33回目を数える全国グループホーム等研修会が「笑顔で一歩　地域の中で」をテーマに、オンライン配信で開催されました。障がいのある皆さんのサービス利用に大きく関わる法制度の改正を目前に控える中、北海道知的障がい福祉協会地域支援部会の実行委員の皆さんが何年も前から準備を重ね、本大会の企画運営を担いました。

行政説明では地域生活支援拠点等事業の活性化などを通して、利用者が住み慣れた地域で生活を続けられる、サービス提供体制を構築していくことなどが話されました。この事業の都道府県ごとの整備状況もグラフで示されていましたが、広大な北海道では整備済みの割合が低く、地域の実情を考慮した柔軟な制度運用も必要ではと感じる所でした。

「コロナで仕事がないんです」とボヤキから始まった笑福亭松枝師匠の記念講演は、笑いや歓声に沸く観客が不在のスタジオ録画ではありましたが、芸歴５０年の絶妙な話芸と間を堪能することができました。

分科会セッション１は地域支援レジェンドお三方による、まさに「故きを温ねて新しきを知る」ことが出来た鼎談ではなかったでしょうか。グループホーム創世期から障がい者福祉をけん引して来られた皆さんが語る「展望」に、課題を感じるとともに大きな期待を抱くことが出来ました。

分科会セッション１　鼎談

分科会セッション２での講演と対談では、改めてグループホームでの支援における「大切なこと」を認識できたのではないでしょうか。利用者の皆さんの安心安全な生活のためと言いつつ、実は支援員や世話人の都合を優先していないか点検の必要性を感じました。

分科会セッション３は医療的支援や医療連携を中心にした、４か所のグループホームからの実践報告でした。どのグループホームでも、事業所の地域性や利用者の皆さんの障がい特性に苦慮しながらも工夫を重ねており、それぞれのたゆまぬご努力に頭の下がる思いでした。

コロナ禍が続く中で本研修会も、オンライン配信という最近のスタンダードスタイルでしたが、おかげさまで全国から６００名超のお申込みをいただきました。そのうち道内からは１５４名ということを考えると、日本最北開催にも拘わらず全国津々浦々から多くの皆様にご視聴いただいたものと実感するところです。

分科会セッション２　対談

次年度開催地区代表の方から「待っとるけーねー」と広島弁での呼びかけもありましたが、一日も早く懇親会の席で開催地の首長さんに感謝されるような全国大会に戻れるよう、祈らずにはいられません。　（取材　中川博之）

全国グループホーム等研修会を終えて

実行委員・グループホーム支援センターにじ施設長　髙橋　雅人

全国大会は20年位前になるでしょうか、まだ月寒グリーンドームがあった頃に全国知的障害福祉関係職員研究大会に実行委員として参加させてもらいました。当時、故野村健施設長が道協会の会長だったこともあり、来賓の送迎も含め、結構ハードだった記憶があります。

コロナ禍の現在、色々なオンライン研修には参加していますが、今回全国規模の研修を企画する側の体験をさせていただき、貴重な機会となりました。

担当した分科会の事前収録を楽しみにしていましたが、事業所でコロナが発生し立ち会いができずご迷惑をおかけしました。その時から、自分はともかく、講師の方々が感染したらどうなるだろう、と心配していました。当日は無事講師の皆様が会場に元気な姿をみせてくださり安堵しました。

大会当日は、事業所職員や世話人が参加し、大変好評でしたが、やはり、集合型の研修が良いという意見もありました。

実行委員長、副実行委員長のリーダーシップのもと、実行委員と協会事務局が連携し、無事大会を終えられたと思います。本当にご苦労様でした。

大会実行委員

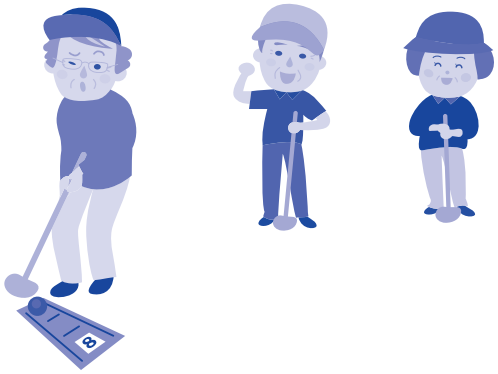
第24回全道知的障がい者施設対抗パークゴルフ大会

大会を振り返って

日高胆振知的障がい福祉協会支援研究委員
（とまこまい地域福祉支援センター）
遊佐　正之

2022 年 7 月 31 日に「第 24 回全道知的障がい者施設対抗パークゴルフ大会」を開催しました。日高胆振地方会で全道パークゴルフ大会を経験した人がほとんどおらず、道協会をはじめ、前年に全道パークゴルフ大会を担当した道北、道東地方会など様々なところからご協力を頂きました。日胆地方会の東山会長を筆頭に実行委員会を立ち上げ、何度も打ち合わせを行い、過去の開催実績などを頼りに準備を進めてきました。7月に入ると道内では新型コロナウィルスの感染者が急増し始め、パークゴルフ大会の開催も危ぶまれましたが、手洗いや消毒、身体的距離確保といった基本的な感染対策の実施、３密を徹底的に避ける対策を行う事でパークゴルフ大会を実施する事が出来ました。

新型コロナウィルス感染拡大により外出制限をされている施設も多く、交流が少なくなっている中、パークゴルフを通して交流を深めることを目的として開催された本大会は、19 チーム計 88 名が参加しました。１チーム４名でコースを周り、上位３チーム、男女３名を表彰し、パークゴルフ大会は大いに盛り上がりました。天候にも恵まれ、大きな事故やケガ等も無く、皆さん終始笑顔で交流を楽しんでいました。



北海道知的障がい福祉協会副会長　佐藤　浩樹

当日は集合時から利用者の皆さんの緊張感やそれ以上の笑顔がいたるところで見ることが出来、こちらの頬が思わず緩んでしまうような交流・光景がたくさん見られ、幸せな時間を過ごすことができました。改めてコロナが早く収束し、このような機会が増えたら…と思う１日でした。

開催に行き着くまでに当日ギリギリまで準備、調整をされた日胆地方会　東山会長、実行委員の皆さん、運営にご尽力なさった皆さんに改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

北海道知的障がい者芸術祭みんなあーと2022

北海道在住の知的障がい児者の芸術活動を推進し、広く啓発するためにはじめた「みんなあーと」は、今回で20回目を迎えました。新型コロナウイルス感染症の影響で３年ぶりの開催となりましたが、ステージ部門のオンラインライブ配信を行うなど新しい試みも取り入れました。少人数でみんなあーとを支えた実行委員から、報告いただきました。

みんなあーと2022を終えて

実行委員・愛和の里きもべつ　羽下　慶祐

まさか、自分に実行委員打診の話があるとは思ってもいませんでした。自分に務まるか不安でしかありませんでしたが、こんな機会は滅多にありませんので引き受けさせていただきました。

今回は展示部門を主に担当し、昨年も直前までは開催の準備は進めていたということでそのノウハウを引き継ぎ、さらには感染症対策を万全に開催を進めなくてはなりませんでした。夏にかけてコロナ感染も急拡大し、各事業所もやはりステージ発表の参加には躊躇した部分もあるかと思います。

展示部門においては例年同様、多くの作品を出品していただきました。どの作品も繊細であり、そして力強く、作品のアイデアには驚かされました。３ 年分の想いが伝わるものばかりで、創作熱にも一段と火が付いたのではないでしょうか。会場にはご自身の作品を観に足を運ばれた方もいて、嬉しそうに作品を眺めている姿がとても印象的でした。

実行委員の立場で無事に終えられてホッとした気持ちと、自分の未熟さを痛感した部分もあり、迷惑ばかりかけてしまったな、という気持ちが入り組んでいます。それでも、ひとつの大きなイベントを実行委員として携わり、様々な方と出会えて交流できたことは自分の糧となっています。

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

ステージ部門を担当して

実行委員・ハローENJOY助歩栗山　犬養　雅博

待ちに待った３年振りの開催となった今回、ステージ部門では初挑戦となる会場参加と、事前録画映像参加によるハイブリッド開催としました。参加チームは例年より少ない４組でしたが、オンライン配信により、全道にみんなあーとのステージを届けられた事は、大変意義深かったと思います。

新実行委員の私は、ステージ部門の担当を任され、先輩実行委員や事務局にその都度アドバイスを頂きながら準備を進めました。なかでも時間を要した事は、シナリオと絵コンテ作成でした。シナリオ作成は､本番のチームの動きや緞帳の上げ下げ､司会の言葉など当日の流れを詳細に記載します。具体的にイメージして形にすることの大変さと、大切さを実感しました。また、準備をしっかりしておく事と、し過ぎない事の見極めを学びました。絵コンテは同じく新実行委員の佐々木さんが作成しました。絵コンテは配信に使用する台本です。シナリオを元にカメラの動きや画像・動画を出す細かいタイミングなど、本番を詳細にイメージしながら作りました。

何よりうれしかった事は、参加したチームの方々がとても活き活きと楽しんでいた事と、実行委員や派遣に協力頂いた方とのつながりを深められた事です。重圧を感じる場面も多かったですが、終わってみると不思議な事に次回に向けた改善点が次々浮かびました。そんな初めての「みんなあーと」となりました。

ステージ横断幕は、北・北海道知的障がい福祉協会の利用者の作品写真を貼り合わせて作って頂き、優しく温かさが感じられる横断幕でした。この場をお借りして作成にご協力頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。

ステージ当日に派遣協力頂いた各地方会支援研究委員の皆様、私の未熟な説明にも関わらず大活躍して下さり、ステージは無事に終わる事が出来ました。改めてお礼申し上げます。

人気 ナンバー No.1

うちのメニュー

「利用者自治会リクエストメニュー」

社会福祉法人札幌報恩会　札幌報恩学園　管理栄養士　結城　あゆみ

当施設では、２ヶ月に１度、利用者自治会から行事食をリクエストして頂いています。今年も、残念ながら運動会は中止となってしまいましたが、6月の行事食は運動会をイメージした「紅白幕の内弁当」を提供致しました。

お弁当のおかずの中で一番人気は、何といっても「唐揚げ」です。外はサクサク、中はジューシーな「唐揚げ」は、利用者の皆様だけではなく、職員にも人気のメニューとなっております。

幕の内弁当のソフト食も、彩りよく盛り付けられ、見た目にも満足して頂ける仕上がりとなり、とても好評でした。

また、8月には七夕行事食として「七夕ちらし」「そうめん汁」「チキンナゲット」「ソーダゼリー」をリクエストして頂きました。

「七夕ちらし」のオクラで夜空のお星さまを、「そうめん汁」のそうめんで天の川を表現致しました。「ソーダゼリー」は、暑い夏にぴったりのさっぱりとした味で、利用者の皆様はとても美味しそうに召し上がって下さいました。

『食べることは生きること』

コロナ渦でも、利用者の皆様が食事を通して季節を感じ、豊かな人生を過ごせるように、これからも真心を込めた食事提供を行って参りたいと思います。

紅白幕の内弁当▶

◀紅白幕の内弁当（ソフト食）

七夕行事食の写真

「一番人気はカレーライス！」

社会福祉法人平取福祉会　すずらん　管理栄養士　酒谷　希望

障がい者支援施設すずらんは昭和59年に授産施設すずらん福祉園として開設されました。今年で38年目になります。

当時利用者の皆さんもまだ若く、農作業に従事していた方たちは、食事の量も多く食べることをとても楽しみにしていました。

現在は現役だった皆さんも高齢になり食べる量も減ってはきましたが、新しい献立表が出るのをいつも楽しみにしてくれています。

その中でもカレーライスは一番人気です。家庭の数だけレシピがあるといわれているように、70名以上の利用者の皆さんの口に合うように、味には工夫を凝らしています。

またカツカレー、目玉焼きカレー、エビフライカレー、ハンバーグカレー、カレーピラフドライカレー、シーフードカレー、カレーうどん、などカレーのバリエーションも豊富にし楽しみができるようにメニューを考えています。

この他にも旬の食材を使ったり、行事食や選択メニューなど、食によって利用者の皆さんの生活が、少しでも豊かなってくれると嬉しいです。

ご長寿バンザイ

全道各地のご長寿さんのほっこりな毎日をお届けします。
うちの「ご長寿さん」を紹介したい！という方、ご応募おまちしています。

まだまだ現役

鶴が丘学園

障がい者支援施設鶴が丘学園は、鶴が舞い降りる自然豊かな小高い丘にあります。時には鹿が来たりするのどかな日々のなか、日中活動で農耕作業を頑張っている菅原昇さん（79歳）をご紹介します。

菅原さんは、広い畑やビニールハウスできゅうり、茄子、とうきびなどの野菜を育て、収穫作業も行っています。最近では、「今年のかぼちゃは甘いよー！職員も食べてみてね！」と自分で育てたかぼちゃの話を嬉しそうにしてくれました。学園の中では、いつも掃除機やモップなどを使って掃除してくれています。職員は菅原さんが疲れてしまわないか心配して声を掛けますが、「大丈夫だよ！俺がやりたくてやっている事だから！職員も疲れると思うから休んでね！」と逆に職員の事も気にかけてくれます。食事の際は、エプロンが必要な利用者さんに付けてくれたり、利用者さんの居室を回って汚れた衣類やシーツなどを回収し台車を使って、洗濯室まで運んでくれます。洗濯室では、1つ1つの洗濯籠を整理し支援員に「こうやって整理しとけば洗濯員の人も楽でしょ！」と周りの人のことも考えられる本当に優しい方です。職員はいつも年齢を感じさせないで頑張り通す菅原さんから元気とパワーをもらっています。

これからもそのパワーあふれる心と身体を壊さず、明るい笑顔と元気を鶴が丘学園の皆さんに届けて欲しいと願っています。

ともに半世紀

つつじの里

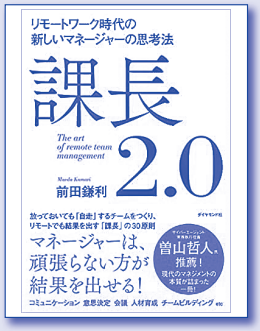
つつじの里は、平成25年に旭川市から移譲を受けて9年が経ちました。今回は旭川市つつじ学園として開設した時から50年、ともに思い出を作ってきた、杉野トシ子さんをご紹介します。今年で88歳になったトシ子さんは、「板パズル」が趣味です。ご家族がプレゼントしてくれることが多いのですが、新しい絵柄のパズルを探すのが大変と悩ませてしまうほどのコレクションです。

自室の机に向かってテレビを見ながらのんびりパズルのピースを並べるのが日課です。完成すると「これ出来たよ」と職員に見せてくれます。また、ユーモアの豊かな方で職員とのやり取りの際はおどけて笑わせてくれることもしばしばです。

コロナ禍で辛抱することも多い日々ですが、施設で行うミニ縁日、花火、ドライブ等積極的に参加され、楽しんでくれています。幅広い年齢の方がいる中でも誰にでも優しく接することが出来る優しいお姉さん。他入居者と言い合いになったりすることもありますが、笑ったり、怒ったり、泣いたりと元気な姿をいつも見せてくれています。

誕生月の8月には、米寿のお祝いを利用者、職員で行いました。記念撮影はもちろん金色のちゃんちゃんこ。「おめでとう」の声にトシ子さんはますます元気な様子。これからも、笑顔いっぱいになれる環境と、ゆっくりとした生活が送れるよう、支援していきたいと思っています。

本の紹介



課長2.0
リモートワーク時代の
新しいマネージャーの思考法

出版社：ダイヤモンド社
ISBN-13：978-4478113066

この頃、福祉関係の本を読んでいない。読みたい本もあるが、本心は読みたくないのである。読んだところで劇的に支援環境が変わらない。この現況にあるのは、風通しの悪さにある。伝え方の問題もあろうが、現場の想いを頭ごなしに否定をされては、良き知識をインプットしてもアウトプット出来ない。そんな悪循環に付き合えるほど、中年の人生は暇ではない。

タイトルの「～2.0」という言葉。何かの規格をアップデートするということなのだが、このタイトルの滑稽さに惹かれ読んでみる。時代の変遷に取り残されないように、知識のアップデートが必要である。リモートワークが増えてきた中、冒頭部分に「リモハラ（リモートハラスメント）」と出てくる。リモートワーク中にカメラなどを用い監視をすることをリモハラと言うようだが、このようなハラスメントは対面業務でも容易に起こる。

読み進め、中程にある「メンバーの『自走力』を引き出す。」という章だけでも読んで欲しい。この章は、管理職は人を管理する立場ではないことを如実に物語っている。職場の活気のない職場は『自走力』不足で、それを生み出せないのは管理職のせいだと言われてしまう。管理職は大多数のマンパワーをムダにしてはいけない。一人で背負い込むから、決断のスピードが鈍り、部下の熱が冷めた頃に決裁される。これでは仕事が面白くないと言われる。即断即決がベストかどうかはさておき、管理職の役割は『チームを良い状態に保つこと』。このことは、未だ「～1.0」の管理職にも、即断即決で実践して欲しい。

スポーツ界に「名選手、名監督にあらず」という言葉があるのをご存じだろうか。これはビジネス界にも当てはまるようで、我々の業界で見てみると、支援が上手な職員が、管理職になると……。「利用者を動かす」、「職員を動かす」。言葉は同様に「人を動かす」なのだが、意味は全く違う。管理職はマネージャーとしての教育を受けるべきである。

（K）

手しごと探検隊！

トマトジュース
「太陽の水」

道北の小さな町美深町で、「桃太郎」という品種のトマトを自家栽培･自家製造しています。農林水産省ガイドライン表示に基づく「特別栽培トマト」を使用し、改良を重ねて今日の「太陽の水」が出来上がりました。

毎年地元スーパーへの納品のほか、今では道内はもとより遠くは九州のお客様にも愛されるまでに成長しました。今後も日々の努力を惜しまず、美味しいトマトジュース作りに励んでいきます。

製品は160mlと500mlの2種類です。販売店舗はございませんので、お電話でお問い合わせください。宅配便にて全国に発送いたします。贈り物としても大変喜ばれていますので、この機会に是非ご愛飲いただければ幸いです。

製造･販売:社会福祉法人美深福祉会　就労継続支援B型事業所 のぞみ
住所:中川郡美深町字美深76番地8
TEL:01656−2−1101／FAX:01656−2−3898

編集会議

先日のリモート編集会議で「最近、楽しかった事は？」という問いに上手く切り返す事が出来なかった。考えてみるとコロナ対策をしながらの生活で、利用者との小旅行やプライベートでのお出かけをほぼしていない。「旅行＝楽しいこと」ではないが、職場と自宅とを往復する、平板な生活が続いている。

そんな凪の日々に刺激が欲しくなったのか、ネット通販の回数が増えている。例えば、黄色いボディの高圧洗浄機を購入。潮風に晒される窓洗いや洗車に大活躍。その洗車の相手となる車を買い換えたり、買い換えたり。（厳密にはネット通販ではないが、交渉の大半はネットでのやりとり。しかも2年も経たないうちに2台目も）。かと思えば、お子様に大人気のゲーム機で島を開拓し、おうち時間を充実してみる。自宅用のPCを買い足してみたり、作業の効率化を図るという、尤もらしい理由を付けて高性能マウスも併せて導入。PCと同じマークの入ったスマートウォッチをとりあえず妻の腕に巻き、コロナを生き抜くために血中酸素濃度が測れることは重要だと力説し、半ば強引に自分用も入手してみたり、とコロナ禍にたっぷりと散財している。

散財の口実として、「新しい事にトライ」と言っておけば、格好も付くだろう。PCは、10年ぶりにリンゴのマークに挑戦している。車も1台目はウインカーレバーが逆に付いていたりもした。あるある話として、ワイパーとウィンカーをよく間違えていた。4回目の年男、コロナ云々を抜きにしても新しい体験がだんだんと少なくなって来ているのも事実。この散財は、派手さのない空気砲程度の弱い刺激で、五十路間近の体には心地よい。嗚呼、そろそろ2台目の支払をせねば。

（広報編集委員　菊池　　尚）